

令和5年冬の交通事故防止運動実施要綱

1 目的

本運動は、広く県民に交通安全思想の普及・浸透を図り、交通ルールの遵守と正しい交通マナーの実践を習慣付けることで、人や車の動きが慌ただしくなり、交通事故の多発が懸念される年末の交通事故防止の徹底を図ることを目的とする。

2 実施期間

令和5年12月1日（金）から14日（木）までの14日間

3 統一行動日

- 12月 8日（金） 飲酒運転根絶の日・夕暮れ時と夜間の交通事故防止の日
- 12月10日（日） 交通事故死ゼロを目指す日・自転車の交通事故防止の日

4 スローガン

人も車も自転車も 安心・安全 埼玉県

5 運動重点

(1) 県重点

- ① 横断歩道における歩行者優先の徹底
- ② 自転車乗用時のヘルメット着用促進と交通事故防止
- ③ 夕暮れ時と夜間の交通事故防止及び飲酒運転等の根絶

(2) 市町村重点

市町村の交通安全対策協議会は、上記の重点のほか、地域の交通事故実態に即して必要があるときは、市町村重点を定めることができる。

6 運動の進め方

県、市町村及び関係機関・団体は、相互に連携・協力し合い、本要綱に基づき、それぞれの実情に即した広報活動などを行い、全ての県民に周知を図るとともに、この運動への参加意識を高め、幅広い県民運動として展開する。

7 主な推進事項

(1) 横断歩道における歩行者優先の徹底

交通事故死者に占める歩行者の割合が高いことから、自動車の運転者に対して道路交通法第 38 条に定める横断歩道における歩行者優先義務を正しく理解させ、歩行者保護意識の向上と横断歩道における歩行者優先の徹底を図る。

また、歩行者に対しては、交通安全教育等を通じて、横断歩道を渡る際の車両運転者への意思表示（ハンドサイン）の周知を図る。

- ・ 横断歩道手前での減速義務及び横断歩行者等がある場合の一時停止義務の周知
- ・ 横断歩道を横断する際に手を上げるなどの意思表示の実践の推進

(2) 自転車乗用時の自転車ヘルメット着用促進と交通事故防止

自転車利用者に対し、道路交通法の一部を改正する法律（令和 4 年度法律第 3 2 号）の施行（令和 5 年 4 月 1 日予定）により、自転車乗車時のヘルメット着用が全年齢で努力義務化されたことを周知し着用促進を図るとともに、交差点での安全確認の徹底や適正な通行方法等の交通ルール・マナーの周知、自転車損害保険等の加入徹底を図る。

ア 自転車乗中時のヘルメット着用促進と努力義務化の周知

- ・ 自転車利用者自身の安全確保のためのヘルメット着用促進
- ・ 改正道路交通法施行による自転車乗用中のヘルメット着用努力義務化の周知

イ 自転車走行における交通ルール・マナーの周知徹底

- ・ 「自転車安全利用五則」を活用した交通ルールの周知と交通事故防止
- ・ 車道左側通行の原則、歩道を通行する場合の徐行と歩行者優先の徹底
- ・ 二人乗りや無灯火、スマートフォン等の使用、飲酒運転等の危険性の周知徹底

ウ 自転車損害保険等の加入徹底

- ・ 「埼玉県自転車の安全な利用の促進に関する条例」に基づく、自転車事故被害者の救済に資するための自転車損害保険等への加入徹底

(3) 夕暮れ時と夜間の交通事故防止及び飲酒運転等の根絶

夕暮れ時から夜間の時間帯に交通事故が多く発生する傾向があることを踏まえ、自動車の運転者に対し、夕暮れ時の早めのライト点灯や夜間の前照灯の上向き点灯活用を呼びかける。また、子供や高齢者を始めとする歩行者や自転車の運転者が自ら反射材等を着用するなどの対策を講じることで交通事故を防止する。

飲酒運転は「しない、させない、ゆるさない」を合言葉に、広く県民に飲酒運転の悪質性や危険性、飲酒運転による交通事故の悲惨さを訴え、飲酒運転は犯罪であることを呼び掛ける。また、「あおり運転」等の危険運転の防止を訴える。

- ・ 夕暮れ時の早めのライト点灯や夜間の前照灯の上向き点灯の活用促進
- ・ 夕暮れ時から夜間外出時の反射材や明るい色の服装の着用促進
- ・ 子供や高齢者を始めとする歩行者等に配慮した思いやり運転に関する啓発の推進
- ・ 飲食店における運転者への酒類提供禁止の徹底

- ・ 事業者に対する飲酒運転の根絶に向けた取組の推進
- ・ 事業所における運転前後のアルコールの有無の確認の徹底
- ・ 妨害運転（あおり運転）の周知、思いやりと譲り合いの気持ちを持った運転の推進

8 実施要領

本運動は、交通事故を防止するため、全ての県民が交通ルールを遵守し、正しい交通マナーの実践を習慣付けるなど交通安全意識の向上を目指しています。

運転者・家庭・学校・職場・地域ぐるみなど、それぞれの視点から交通事故ゼロを目指しましょう。

<自動車・二輪車の運転者>

- ・ 歩行者や自転車がいたるときは、スピードを落とす、ゆとりを持った距離をとるなど思いやりのある運転を心掛けましょう。
- ・ 横断歩道や見通しの悪い交差点を通過する際は、直前で停止可能な速度で進行し、歩行者がいたときは、その通行を妨げないようにしましょう。
- ・ 夕暮れ時における前照灯の早めの点灯、夜間の対向車・先行車がない状況の走行用前照灯（ハイビーム）の積極的な使用、上向き・下向きのこまめな切替えをしましょう。
- ・ 全席シートベルトを着用し、幼児、児童には体格に合ったチャイルドシート等を正しく使用しましょう。
- ・ スマートフォン、携帯電話の使用は、安全な場所に駐車してから行いましょう。
- ・ 歩行者・自転車の側方を通過する際は、安全な間隔を保持しましょう。
- ・ 飲酒運転は悪質な犯罪です。絶対にやめましょう。
- ・ 妨害運転（あおり運転）は危険です。運転に際してはゆとりと周囲への思いやりの気持ちを忘れないよう心掛けましょう。
- ・ 健康管理を心がけ、体調不良時は運転を控えましょう。
- ・ 二輪車を運転する際は、二輪車の性能や自己の運転技量を過信することなく、カーブの手前では十分に速度を落とすなど、ゆとりを持った運転を心掛けましょう。また、ヘルメットやプロテクターを正しく着用して身体を守りましょう。
- ・ いわゆる電動キックボード等は、大きさや構造等によって、普通自動二輪車等、一般原動機付自転車又は特定小型原動機付自転車に区分されることから、車両区分をよく確認しましょう。
- ・ 特定小型原動機付自転車に乗る際は、交通ルールについて調べた上で、ヘルメットを着用し安全に利用しましょう。
- ・ 夜間は状況に応じ前照灯をハイビームにするなどして、路上寝込み等に注意しましょう。また、発見した際は速やかに110番通報しましょう。
- ・ 衝突被害軽減ブレーキや、アクセル・ブレーキなどのペダル踏み間違い急発進抑制装置等の、安全運転を支援する先進安全性能を備えた安全運転サポート車（サポカー）について、搭載している車両の利用や、搭載していない車両に後付けするなどして活用しましよ

う。

<自転車の運転者>

- 自転車に乗るときは、ヘルメットを着用するとともに、自転車損害賠償保険等に加入しましょう。
- 車道が原則、歩道は例外です。車道では、左側端に寄って通行しましょう。
- 自転車専用通行帯や自転車道があるときは、そこを通行しましょう。
- 道路の左側部分に設けられた路側帯を通行するときは、歩行者優先を遵守しましょう。
- やむを得ず歩道を通行する場合は、歩行者優先を遵守し車道寄りを徐行しましょう。
- 横断歩道を通行するときは、横断中の歩行者の通行を妨げるおそれがある場合には、自転車から降車して、自転車を押して渡りましょう。
- 交差点では信号や一時停止を守り、安全確認を必ず行いましょう。
- 飲酒運転・二人乗り・傘差し・イヤホンやスマートフォンの使用などの危険な運転は絶対にやめましょう。また、対向車線からの接近や不必要なブレーキなどで他の車両を妨害する「あおり運転」は自転車も対象です。絶対にやめましょう。
- 夕暮れ時や夜間に自転車を利用するときは、明るい色の衣服や反射材を身に付け、必ずライトを点灯しましょう。
- 幼児用座席に幼児等を乗せるときは、人数や方法を正しく守り、必ずヘルメットとシートベルトを着用させましょう。

<高齢者>

- 道路を横断するときや、交差点を通行するときは、自分の目でしっかり安全を確認するとともに、駐車車両や通行車両の直前・直後の横断はやめましょう。
- 横断歩道を横断するときは、歩行者は手を上げるなどして、運転者に横断する意思を明確に伝えましょう。
- 自転車に乗るときは、交通ルールを守り、ヘルメットを着用しましょう。
- 夕暮れ時や夜間に外出するときは、反射材を身に付け、明るく目立つ色の衣服を着用しましょう。
- 加齢に伴う身体機能や認知機能の変化等により、運転に不安を感じたときは、運転免許証の自主返納やサポートカー限定免許証への切り替えを検討しましょう。

<家庭>

- 「もしかして・とまる・みる・まつ・たしかめる」を合言葉に、子供に交通ルールやマナーを守る態度を身に付けさせましょう。
- 子供が普段通行する道路等の危険箇所を確認し、注意するよう指導しましょう。
- 横断歩道を横断するときは、手を上げるなどして、横断する意思表示を車両運転者に示すよう指導しましょう。
- 「歩きスマホ」はしないよう声を掛け合いましょう。

- ・ 家族が自転車を運転する時は、ヘルメットを着用させましょう。
- ・ 夕暮れ時や夜間に外出するときは、反射材を身に付け、明るく目立つ色の衣服を着用するよう、声を掛け合しましょう。
- ・ 二輪車で無謀運転、危険・迷惑行為をしないよう呼び掛けるとともに、交通事故の責任や命の大切さについて話し合しましょう。
- ・ 加齢に伴う身体機能や認知機能の変化等を踏まえて、衝突被害軽減ブレーキ及びペダル踏み間違い時加速抑制装置が搭載された安全運転サポート車の利用や運転免許証の自主返納等について話し合う機会を設けましょう。
- ・ 飲酒運転や妨害運転（あおり運転）の悪質性・危険性について話し合しましょう。
- ・ 自宅で飲酒した後もアルコールが抜けるまでは、運転をしないよう注意しましょう。
- ・ 飲酒後に事故に遭わないため、飲酒のリスクや帰宅方法について話し合い、考える機会を設けましょう。

<学校>

- ・ 通学路等の危険箇所を再確認し、児童生徒の安全な通行環境を確保しましょう。
- ・ 横断歩道を横断するときは、手を上げるなどして横断する意思表示を車両運転者に示すよう指導しましょう。
- ・ 「歩きスマホ」等の危険な行為はやめるように指導しましょう。
- ・ 児童、生徒が自転車を利用する際は、ヘルメットを着用するように指導しましょう。
- ・ 自転車で歩道を通行する場合は、車道寄りを徐行し、歩行者がいる場合は一時停止するなど、歩行者優先を指導しましょう。
- ・ 自転車の前照灯は、夕暮れ時から早めに点灯させ、夜間は必ず点灯させるよう指導しましょう。
- ・ 自転車の二人乗りや並進、傘差し運転、イヤホンやスマートフォン等の使用は絶対しないよう指導しましょう。
- ・ 原動機付自転車、二輪車に乗車している又は購入を予定している学生に対しては埼玉県教育委員会が主催する交通安全講習等を受講するよう指導しましょう。
- ・ 特定小型原動機付自転車は16歳未満の運転が禁止されているため、絶対に運転しないよう指導しましょう。

<職場>

- ・ 朝礼や行事の機会を活用し、従業員に子供や高齢者の行動特性等を理解させ、子供と高齢者の近くを走行するときは、スピードを落とす、ゆとりを持った距離をとるなど思いやりのある運転を指導しましょう。
- ・ 警察署や関係団体と連携して、二輪車を使用した業務・通勤時の安全運転について指導しましょう。
- ・ 飲酒の機会があるときは、飲酒運転を避けるため、事前にタクシーの利用、ハンドルキーパーの指定等についての検討や、出勤方法の変更を指導しましょう。

- ・ 酩酊により道路に寝込む等して事故にあわないよう、適度な飲酒のあり方について指導しましょう。
- ・ 運転中のスマートフォン等の使用は絶対にやめるよう従業員に指導しましょう。
- ・ 車間距離を詰めるなど、妨害運転（あおり運転）は大変危険です。厳しい処分があることを周知し、絶対にやめるよう指導しましょう。
- ・ 自転車を利用するときは、ヘルメットを着用するよう指導しましょう。
- ・ 特定小型原動機付自転車を利用するときは、ヘルメット着用し、保安基準に適合した機種を選ぶとともに、交通ルールをよく確認して安全に乗りましょう。

<地域>

- ・ 町内会などの各種会合の機会を活用し、地域内の危険箇所の周知や高齢歩行者の死亡事故の特徴、加齢に伴う身体機能や認知機能の変化等を踏まえた交通安全教室を行うなど、地域の交通安全意識の向上を図りましょう。
- ・ 関係機関、幼稚園、保育園、学校等が密接に連携し、地域ぐるみでの子供を見守る活動等を推進しましょう。
- ・ 夕暮れ時や夜間に外出するときは、反射材を身に付け、明るく目立つ色の衣服を着用するよう声を掛け合いましょう。
- ・ 酒類販売店や飲食店等と協力して、地域から飲酒運転を根絶しましょう。
- ・ 踏切事故を防止するため、地域の各種会合等を活用し、踏切を横断する際の注意点などについて話し合いましょう。

<事業者>

- ・ タクシー、高速乗合バス及び貸切バス等の乗客に対して、シートベルト着用の重要性を周知し、全ての座席でのシートベルト着用を徹底しましょう。
- ・ 横断歩道の直前で停止可能な速度での進行や、手前での一時停止など、横断歩行者の優先を実行しましょう。
- ・ 安全運転管理者を選任している事業所では、アルコール検知器を用いた運転前後のアルコール有無の確認を確実にを行い、飲酒運転の防止に努めましょう。
- ・ 自動車の利用運行状態に応じた具体的な指導を行い、交通事故を起こさないための安全運転管理に努めましょう。
- ・ 特定小型原動機付自転車を販売する際は、購入者の年齢確認を徹底するとともに、全ての購入者に対して交通安全教育指針に従った交通安全教育を行いましょう。

<飲食店>

- ・ 車両での来店の有無を確認し、運転者に酒類を提供しないなどハンドルキーパー運動を推進しましょう。
- ・ タクシーや運転代行等の利用を働きかけて、飲酒した人に運転させないように徹底しましょう。

- 配達する場合や、デリバリーの依頼をする場合は、配達員に対して安全運転の徹底について指導しましょう。